

アレックス先生の ダイアリー

来日する直前のある日、日本語の先生から「日本へ行ったら、一番驚いたことを教えてください」と、お願いをされました。しかし、いざ日本に来てみるとそれはもう驚きの連続。一体全体的に何を話したらいいのやら…。

たくさんの驚きの中から、僕は「こんなこと」を先生に教えました。それは、学校や公共の施設のトイレにはタオルがなく、お湯も出ないということ。すぐにハンカチを持ち歩くようになったのでタオルが無くて困ることは特にありませんでしたが、冷たい水で手を洗うのは今だに苦勞しています。皆さんは水の冷たさが気にならない?特に冬の寒い時期に冷たい水で手を洗うときは蛇口に恐るおそる手を伸ばしてしまいます。

川俣分庁舎だより

学年末、新学期における少年の非行防止・犯罪被害の防止

学年末から新学期にかけては、少年が環境の変化に伴い、非行に走ったり、犯罪の被害に遭う危険性が高まります。お父さん、お母さん、ご家族は次の点に注意しましょう。

●少年の非行防止

お子さんの言葉づかいや持ち物、服装の乱れ、帰宅時間の遅れなど何気ない変化を見逃すことなく、正しい方向に導きましょう。

●少年が使用する携帯電話にはフィルタリングを!!

入学や進学に合わせ、お子さんの携帯電話の新規購入や機種変更を考えていませんか。出会い系サイト、アダルトサイト等の違法・有害情報サイトを遮断するフィルタリングサービスは、お子さんの発達段階に応じ、小学生対象、中学生対象、高校生対象、全年齢対象など様々あり、変更可能です。

●詳しくは、携帯電話販売店等にお問い合わせ願います。

福島警察署川俣分庁舎 Tel.566-3121

実は、先生にはまだ話していない日本に来て驚いたことがもう一つあります。それは、町内のすべての小学校で一輪車に乗って遊んでいる児童がいるということです。南小学校に初めて行ったときの衝撃はいまでもハッキリと覚えています。ちょうどお昼休みの時間、何人かの児童が前に後ろに一輪車を走らせているではありませんか…。なかには一年生もいてみんな上手に一輪車に乗っている姿に本当にびっくりしてしまいました(アンビリバーボー!!)。カナダでは一輪車は物語の中のキャラクターやピエロや曲芸師が乗るものという認識です。サーカスにでも行かない限り一輪車を日常生活の中で目にするのはまずありません。カナダの友達にこのことを話したらきっとびっくりするだろうと思い、楽しそうな子どもたちの写真を撮りました。でも友達には信じようともしませんでしたけどね。

その後、このことを日本の友達にも話す機会があり、僕は「カナダで一輪車に乗れるのは曲芸師や道化師ぐらいだよ」と話しました。「一輪車に乗ってる人を見たら、お手玉みたいにいくつものボールを操るんじゃないかなと期待するよ」。すると友達は真顔でこう言い返してきました。「そうだね、一輪車で買物に行く人もなかにはいるよ、日本にはね。そして買ったものをボールみたいに空中にほうり投げて家に帰るのさ」。「えっ!」。友達は僕の表情をちらりと見るなり「冗談だよ」そう言って笑いました。



いまでは尊敬の眼差しで子どもたちを見つめています。スゴイ!

MY サークル 女神サークル (大正琴) Vol. 40



- ◆活動日：月2回(水曜日) 午後1時30分～3時30分
- ◆活動場所：福田公民館
- ◆会員数：4名
- ◆会費：2,000円/月
- ◆問い合わせ：福田公民館 Tel. 566-2785 まで

平成元年に始まった大正琴を楽しむサークル「女神サークル」は、初心者を中心に活動を行っています。大正琴の魅力を一言でいうと、何とも言えない音色。どこか懐かしいこの音色は演奏していても心にしみ入ります。地域の親睦を深めようと始まったこのサークルも多いときは20名ほどの会員がいました。現在

はメンバーが入れ替わりサークルの再出発を歩み出したばかりです。これから始めてみたいという方には参加しやすい環境ですので、あなたも「女神サークル」で日本人の心の音色を奏でましょう。男性の方、福田地区以外の方、どなたでも参加していただけます。ぜひこの機会に楽器の趣味を持ってみませんか?

町民文芸

かわまた短歌会

菜の花のちぎり絵をして居れば孫はひとりで廊下を走る

整地され仮設校舎が建つと言う広場に消ゆる冬の落日

上を向き正面向きも横向きも有りて和める山の向日葵

すでに既に遠き彼方の風景に囲炉裏を囲むはらからの声

裏山の木々の伐採始めたり除染のためにと切られてゆけり

高野美智子

関 秀子

佐藤 三知

佐藤 敏子

佐藤 トシ

あのときを決して忘れない。

忘災

大切なものを守れますか

東日本大震災から1年。私たちは現在も様々な困難から立ち上がる努力をしている。しかし、原子力災害という前代未聞の惨事をどう受け止めていけばいいのか、いまだに明確な答えは出ていない。

だが、英知を結集した科学の力がこの難局を乗り越える道しるべとなってくれることを信じてやまない。未来へと続く時間の流れは希望に満ちたものと誰もが信じているから…。

しかし、この未曾有の被害をもたらした自然の猛威は、我々の想像をはるかに超え、計り知れないエネルギーで襲いかかった。マグニチュード9.0の東日本大震災という歴史に深く刻み込まれたこの出来事を誰が予測できたであろう。そのすさまじい力は、日本列島を大きく東へと引っぱったり、バランスを激しく崩してしまつた大地は、いつまた蓄えたエネルギーを放出し大地を大きく揺れ動かすのかという、とても不安定な状態にある。

いま、東日本大震災で我々が学んだ多くのことを防災意識として一人ひとりの心に深く刻み、そして、またいつ起こるか分らないその時に備え、できることをしておくことが、『いま』をしっかりと受け止めながら生きるということではないだろうか。それがこの時代を生きる我々のやるべきことなのだと強く思う。

日々、物資の不足による緊張が続き、先のことごまたく予測できなかった。誰もが幸せとはこんなに身近にあったんだという事を思い知らされた。自然災害という、決して誰もが避けてとおれない絶大な力に対し、我々ももっと強く意識をかたむけなければいけない。



いつ起こるかもしれない自然災害を想定して日々の生活を送ることこそが防災である。それは人に言われてすることではなく、自らが考え、自らが行動を起こすということ。いざという時に少しでも心に余裕を持てるよう、冷静な判断ができるよう、我々は日頃からの備えを大切にしなければならない。

あなたの備え万全ですか？

BOUSAI ISHIKI

BOUSAI ISHIKI

